

農業食料工学会誌 和文投稿細則

| | | |
|-------------------|---------------------|-------------------------|
| (昭和 57 年 4 月 制定) | (平成 9 年 1 月 改正) | (平成 23 年 4 月 改正) |
| (昭和 59 年 1 月 改正) | (平成 10 年 1 月 改正) | (平成 25 年 6 月 改正) |
| (昭和 59 年 6 月 改正) | (平成 12 年 6 月 改正) | (平成 26 年 12 月 改正) |
| (昭和 59 年 9 月 改正) | (平成 12 年 11 月 改正) | (平成 31 年 2 月 改正) |
| (昭和 62 年 4 月 改正) | (平成 13 年 9・11 月 改正) | (2020 年 2 月 改正) |
| (昭和 63 年 11 月 改正) | (平成 15 年 12 月 改正) | (2020 年 9 月 改正) |
| (平成 2 年 11 月 改正) | (平成 18 年 4 月 改正) | <u>(2020 年 12 月 改正)</u> |
| (平成 5 年 1 月 改正) | (平成 19 年 1 月 改正) | |
| (平成 6 年 1 月 改正) | (平成 21 年 1 月 改正) | _____部 2020 年 12 月改正部分 |

農業食料工学会誌投稿規程第 17 条第 1 項の規定により、和文投稿細則を次のとおり定める。

I 一般事項

1. 原稿の書式

- (1) 原稿は、文書作成ソフトウェア (Microsoft Word 等) にて作成し、A4 判縦置き、横書きで 25 字 (欧文は半角文字で 50 字分) × 25 行を 1 枚とする。マージンは上下左右各 3 cm、文字の大きさは 12 ポイントとする。また、原稿下欄外中央に頁番号、原稿左欄外に通り行番号を挿入するものとする。
- (2) 学会誌 1 ページとは、9 ポイント活字 25 字 × 50 行、2 段組 (計 2,500 字) を意味し、原稿 (25 字 × 25 行) 4 枚で 1 ページとなる。ただし、標題を含む第 1 ページは、2.5 枚でおおむね 1 ページとなる。図・写真は 1 単位 (製版仕上りで 64 cm², 8 × 8 cm) が 0.2 ページに相当する。

2. 原稿の文体と内容

- (1) 欧文または片仮名書きを必要とする部分以外は漢字まじり平仮名書きとする。原則として、文体は口語体とし、常用漢字 (例えば“圃場”ではなく“ほ場”とする)、現代仮名使いに従う。
- (2) 原稿の内容はできるだけ簡潔にし、文章、式の変換等の記述が冗長にならないようにする。同一成績を示す図と表、または同一物を示す写真と図はなるべく一方とする。

II 原稿の整理

1. 標題、著者名、要旨

- (1) 標題には主題のほか副題を記載することができる。標題の記載位置は行の中央とし、副題の前後には 2 字相当 (倍角) のハイフンを入れる。
- (2) 和文標題の主題は、(第○報) を含め 25 字以内が望ましい。英文標題では、前置詞、接続詞、冠詞以外は単語の先頭文字を大文字とする。
- (3) 著者名の記載位置は行の中央とし、和文著者名では、複数の著者名を「・」で区切る。英文著者名では、名を小文字 (先頭のみ大文字)、姓をすべて大文字で記

載し、複数の著者名をコンマで区切る (“and” は使わない)。

- (4) 和文要旨及び英文 Abstract の見出しはゴシック体とし、記載位置を行の中央とする。
- (5) 和文要旨は 300 字以内、英文 Abstract は 120 語以内とする。和文要旨、英文 Abstract と同じ内容であることが望ましい。

2. キーワード

- (1) キーワードは著者自身が、5~10 語程度選定する。
- (2) キーワードの掲載は、日本語とそれに対応する英語とする。英語はすべて小文字とするが、固有名詞は最初の文字のみ大文字とする。
- (3) 研究論文、技術論文原稿では、和文要旨の次行に [キーワード] と見出しを書き、その後に続けて日本語のキーワードをコンマで区切り列挙する。さらに、英文 Abstract の次行に、[Keywords] と見出しを書き、その後に続けて、日本語のキーワードに対応する英語のキーワードをコンマで区切り列挙する。
- (4) 速報、レビュー、解説、資料の原稿では、英文著者名の次行に、[キーワード] と見出しを書き、その後に続けて日本語のキーワードをコンマで区切り列挙する。さらに、日本語のキーワードの次行に、[Keywords] と見出しを書き、それらに対応する英語のキーワードをコンマで区切り列挙する。
- (5) 選定に当たっては、
 - a. 原稿の内容が推測できるように選ぶ。
 - b. 具体的な意味のある語 (狭義の語) を選ぶ。
 - c. 原則として名詞単数形とする。
 - d. 省略語、複合語などは広く通用しているものに限る。

[例 1 (研究論文、技術論文の例)]

研究論文 (または技術論文)

農用トラクタの自動制御 (第 1 報) *

—— エンジン負荷検出による走行速度制御 ——

農機太郎 *1†・稲穂次郎 *2

要 旨

○○○○ (300 字以内)

[キーワード] 機関トルク、ラプラス変換、○○、・・・

(5~10 語)

Automatic Control of Agricultural Tractor (Part 1) *

—— Travelling Speed Control by Detecting Engine Load ——

Taro NOKI *¹†, Jiro INAHO *²

Abstract

○○○○ (120 語以内)

[Keywords] engine torque, Laplace transform, ○○, … (5~10 語)

[例 2 (速報, レビュー, 解説, 資料の例)]

速報 (またはレビュー, 解説, 資料)

農用トラクタの自動制御 *

——エンジン負荷検出による走行速度制御——

農機太郎 *¹†・稲穂次郎 *²

Automatic Control of Agricultural Tractor *

——Travelling Speed Control by Detecting Engine Load——

Taro NOKI *¹†, Jiro INAHO *²

[キーワード] 機関トルク, ラプラス変換, ○○, … (5~10 語)

[Keywords] engine torque, Laplace transform, ○○, … (5~10 語)

3. 発表実績, 会員の資格の有無, 著者の所属

(1) 投稿前, 既に当学会の講演会等で発表した研究は, その発表年月, 講演会名及び開催地を, 当学会誌に速報, 解説, 資料, テクノトピックス, または特集として掲載された研究は, 掲載誌巻号と掲載年を, [Keywords] の次行に引いた罫線の次行から和文で記載する。その際には, 標題 (主題) の右肩に*印を付ける。

[例 1 (講演会で発表した場合)]

* 2013 年 9 月第 72 回農業食料工学会年次大会 (帯広) にて講演

[例 2 (速報として掲載された場合)]

* 農業食料工学会誌第 76 巻 1 号 (2014) に速報として掲載

(2) 著者が投稿時に会員である場合は, 会員である旨を和文で記載した後, 著者の所属 (当該研究を主として行ったところとする) 及びその住所を, [Keywords] の次行に引いた罫線の次行 (発表実績のない場合) または発表実績の次行から和英両語で記載する。その際には, 著者名の右肩に *1, *2, *3 … の印を付ける。著者の中から Corresponding author (コレスポンディング・オーサー: 責任著者) をひとり選び, 著者の右

肩に付けた数字の後に†を付け, 以下の記載例に従い, メールアドレスを記す。

[例 1 (単著で異動のない場合)]

*1 会員, 農機大学農学部 (〒123-4321 埼玉県北都市東区南町 6-10-1), Faculty of Agriculture, Noki University, 6-10-1, Minami-cho, Higashi-ku, Hokuto-shi, Saitama 123-4321, Japan

† Corresponding author: noki_taro@jsam.jp

[例 2 (共著で異動のない場合)]

*1 会員, 農機大学農学部 (〒123-4321 埼玉県北都市東区南町 6-10-1), Faculty of Agriculture, Noki University, 6-10-1, Minami-cho, Higashi-ku, Hokuto-shi, Saitama 123-4321, Japan

*2 東都農業試験場 (〒831-6521 兵庫県東都郡西端町真南 1-2), Touto Agricultural Experiment Station, 1-2, Maminami, Nishihata-cho, Touto-gun, Hyogo 831-6521, Japan

*3 会員, 南都大学農学部 (〒321-1234 兵庫県南都市北町 1-2-1), Faculty of Agriculture, Nanto University, 1-2-1, Kita-machi, Nanto-shi, Hyogo 321-1234, Japan

† Corresponding author: noki_taro@jsam.jp

(3) 投稿時に当該研究を主として行ったところから他の機関に異動しているときは, その後に「現在: ○○大学」のように記載する。このとき, 筆頭著者及び責任著者のみ, 異動後の機関名に続いてその住所を和英両語で記載する。

[例 1 (筆頭著者または責任著者に異動があった場合)]

*1 会員, 東都農業試験場 (〒831-6521 兵庫県東都郡西端町真南 1-2), Touto Agricultural Experiment Station, 1-2, Maminami, Nishihata-cho, Touto-gun, Hyogo 831-6521, Japan; 現在: 農機大学農学部 (〒123-4321 埼玉県北都市東区南町 6-10-1), Present address: Faculty of Agriculture, Noki University, 6-10-1, Minami-cho, Higashi-ku, Hokuto-shi, Saitama 123-4321, Japan

*2 会員, 東都農業試験場

† Corresponding author: noki_taro@jsam.jp

[例 2 (筆頭著者及び責任著者以外に異動があった場合)]

*1 会員, 東都農業試験場 (〒831-6512 兵庫県東都郡西端町真南 1-2), Touto Agricultural Experiment Station, 1-2, Maminami, Nishihata-cho, Touto-gun, Hyogo 831-6521, Japan

*2 会員, 同上, 現在: 南都大学農学部

† Corresponding author: noki_taro@jsam.jp

4. 著者の略歴 (論説、特集、テクノトピックスまたは解説投稿時)

著者の略歴には、著者名 (ふりがな) を記載した後、職歴、当学会での会員の種別 (名誉会員、正会員等) と役職を 110 字以内で別紙に記載する。

5. 見出し

(1) 見出しにつける区分けの番号または記号は次の順序で用いることを原則とする。なお、研究論文・技術論文以外では、第2区別の小見出し番号 (1.2.3.) から用いても差し支えない。

- | | | |
|-----|------|-------|
| I | II | III |
| 1. | 2. | 3. |
| (1) | (2) | (3) |
| a. | b. | c. |
| (a) | (b) | (c) |
| (i) | (ii) | (iii) |

(2) 大見出し (I ○○○) は行の中央に書き、それ以外の小見出しは行の左端より1文字相当あけて書く。大見出しと第2区別の小見出し (1. ○○○) はゴシック体とする。

(3) 大見出しから第3区別の小見出し ((1) ○○○) までは、見出しの後に改行する。

(4) 摘要等の中で箇条書きをするときの番号は、「1), 2)」とし、2行目からの行の左端をあけて記載する。

6. 数式及び記号

(1) 原稿中の数式に付ける番号は、「(1), (2)」のように記載する。

(2) 英数文字はすべて半角とする (上付き, 下付き文字を含む)。

(3) 数式は、左端を2文字相当あけて書きはじめる。

(4) 数量または数値を表わす記号は、イタリック体 (斜体) またはギリシャ文字に、単位、演算記号は、ローマン体 (立体) にすることが望ましい。

[例1 (数式及び記号の記載例)]

切削部に作用する力 W_2 は、次式により求められる。

$$W_2 = \frac{C - D}{3 \sin \beta} \left(\sum_{k=1}^n S_k + \log m \right)$$

ここで、 C : 試料の質量(kg), β : 作用角($^\circ$)である。
«上記で、数量を表わす記号 W_2 , C , D , m , S_k , β , k , n はイタリック体またはギリシャ文字とする。単位を表わす記号 kg, 演算記号を表わす Σ , \sin , \log はローマン体とする。記号の説明は、文中に入れるか一覧表を用いる。»

7. 単位

(1) 研究論文, 技術論文, 速報及び資料に用いる単位は、国際単位系 (SI) (SI 単位と併用してよい単位を含む)

む) とし、必要に応じて従来単位を併記する。

(2) 前記以外に用いる単位は従来単位でもよいが、なるべく国際単位系とし、国際単位系の場合は必要に応じて従来単位を併記する。

(3) 特に間違いやすい例

a. SI 単位

s (時間の秒, sec ではない)

W (仕事率, 動力等, PS ではない)

b. SI 単位と併用してよい単位

h (時間の時, hr ではない)

d (時間の日, day ではない)

$^\circ$ (平面角の度, deg ではない)

l または L (リットル, 数字の 1 と混同するおそれのあるときは L を用いる, l ではない)

(4) 数字と単位の間には半角スペースを入れる。 $^\circ$, $^\circ\text{C}$, % についても同様とする。

8. 引用文献

(1) 引用文献は、本文中に著者の姓と発行年を、規格文書等は番号を () 内に挿入して必ず引用する。本文中の同一箇所には複数の引用文献がある場合、年代が古い順に、同年の場合には著者姓のアルファベット順に、セミコロン (;) で区切って並べる。同年の同一著者姓で引用する場合は 2001a, 2001b 等と区別する。和文論文の引用においては、著者 2 名以上の場合には筆頭著者の後に「ら」とする。欧文論文の引用においては、著者 2 名の場合には and で結び、3 名以上の場合には筆頭著者の後に et al. とする。

[例1 (論文中での引用例)]

既にトラクタの自動制御については研究例がある (Noki and Inaho, 1975a; Noki and Inaho, 1975b; Noki et al., 1975)。また稲穂ら(1978)も作業機の自動制御について報告している。

(2) 本文末尾にリストとしてまとめるときの見出しは References とし、記載位置を行の中央とする。行の左端から筆頭著者姓のアルファベット順 (和文論文等も欧文論文に準じる) に記載する。番号はつけない。

[例1 (引用文献リストの記載例)]

References

- Bekker, M.G., 1969. Introduction to Terrain-Vehicle Systems. University of Michigan Press, Ann Arbor, 135-138.
- 農機太郎, 稲穂次郎, 2000. 農用トラクタの制御. 農業機械学会誌, 62(1), 55-59.
- Noki, T., 2001. Automatic control of running velocity. <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsam/j6809321.html>. Accessed Nov. 21, 2008.

(3) 雑誌 (学術論文, 記事等は問わない) では、「著者

名（複数の場合は原則として省略せずに半角コンマで区切る）、発行年（西暦）（または印刷中、*in press*）. 論題（主題のみとし副題は省略する）. 雑誌名（省略しない）、巻号、ページ（印刷中については doi があれば記載）.」の順に記載する。英文雑誌の論題では先頭のみを大文字とする。

[例1（雑誌の記載例）]

農機太郎, 稲穂次郎, 2014. 農用トラクタの自動制御（第1報）. 農業食料工学会誌, 76(1), 55-59.

農機太郎, 稲穂次郎, 印刷中. 農用トラクタの自動制御（第2報）. 農業食料工学会誌.

Noki, T., Inaho, J., *in press*. Automatic control of agricultural tractor. Transactions of the ASABE, doi:10.1016/j.transasabe.2015.05.009.

(4) 単行本では、「著者名（複数の場合は原則として省略せずに半角コンマで区切る）、発行年（西暦）、書名と版数、発行所、発行地、引用ページ。」の順に記載する。分担執筆の単行本では、「分担執筆者名、発行年（西暦）、分担論題、編者または監修者名、書名と版数、発行所、発行地、引用ページ。」の順に記載する。英文単行本の書名では、前置詞、接続詞、冠詞以外は単語の先頭文字を大文字とする。

[例1（単行本の記載例：単著の場合）]

農機太郎, 1992. 農業機械の自動制御（第2版）. 農機堂, 東京, 12-14.

[例2（単行本の記載例：分担執筆の場合）]

農機太郎, 1992. 走行速度の自動制御. 大宮次郎編, 農用トラクタ（第2版）. 農機堂, 東京, 115-119.

(5) プロシーディングスでは、「著者名（複数の場合は原則として省略せずにすべて半角コンマで区切る）、発行年（西暦）、論題、会議名（省略しない）、開催地、(国名)、ページ。」の順に記載する。

[例1（プロシーディングスの記載例）]

Noki, T., Inaho, J., 2000. Automatic control of agricultural tractor. Proceedings of the International Conference of Agricultural Engineering, Tokyo, Japan, (CD-ROM).

農機太郎, 稲穂次郎, 大宮三郎, 2013. 農用トラクタの自動制御. 第72回農業食料工学会年次大会講演要旨, 帯広, 265-266.

(6) 英語以外の外国語文献をリストに記載する場合は、和訳または英訳された論題をつける。文献に和訳も英訳も無い場合は、著者の責任において論題を和文

または英文で翻訳表現し、さらに括弧書きで原語論題を記載する。その後に（ドイツ語）あるいは（in German）等を付記する。

[例1（英語以外の外国語文献の記載例）]

Vogel, S., Hofreither, M. F., Schneeberger, W., Weiß, F., 2004. Factors of farm enlargement plans in the Austrian Mountain Regions (Bestimmungsgründe von Flächenausweitungsplänen in der Berglandwirtschaft Österreichs) (in German). Die Bodenkultur, 55(2), 73-81.

王明, 李紅, 2006. イチゴ収穫ロボット（草莓采摘机器人）（中国語）. 农机出版, 北京, 102-106.

(7) 特許文献では、「発明人名（複数の場合は原則として省略せずにすべて半角コンマで区切る）、年（西暦）、特許出願人名、発明の名称、特許文献の番号等、特許文献の日付。」の順に記載する。特に和文特許については、論文掲載直前時点での出願・公開等の区別があれば明記する。

[例1（特許の記載例）]

稲穂次郎, 2007. 広島大学. 微生物の高感度迅速検出方法. 特開 2007-123456. 2006-03-30.

農機太郎, 2006. 文部科学省研究振興局長. 廃プラスチック選別機. 特許第 1234567 号. 2006-03-08.

Smith, D. W., 2004. ABC Research Union. U. S. Patent 6,677,333. Compact folding aircraft passenger ramp. 2004-01-13.

(8) 規格文書では、「規格番号: 制定年. 規格標題。」の順に記載する。

[例1（規格文書の記載例）]

ISO 13856-1: 2001. Safety of machinery.

JIS L 1902: 2002. 繊維製品の抗菌性試験方法.

[例2（規格文書の引用例）]

材料の試験には、標準法（JIS L 1902: 2002.）を用いた。

(9) ウェブサイトに掲載されている電子媒体のみの文献では、「著者名（複数の場合は原則として省略せずにすべて半角コンマで区切る）、発行年（西暦）、論題、(doi があれば記載)、ウェブサイトのアドレス、最終アクセス日。」の順に記載する。

[例1（ウェブサイトに掲載の文献の記載例）]

Noki, T., 2000. Automatic control of running velocity. doi:10.1016/j.transjsam.2008.05.009.

<http://www.soc.nii.ac.jp/contents/journal6809321.html>.

9. 図、表、写真

- (1) 図、表及び写真（以下「図表等」という。）は一つごとに別ページとし（A4判）、一つのファイルにまとめる。表は画像に変換せずに修正可能な形式とする。
- (2) 図表等の中の説明は、英文であることが望ましい。図表等の挿入箇所を本文原稿の右欄外に朱筆で指定する。
- (3) 図表等のタイトル及びキャプションは、和文に英文を併記し各図表等に記載する。図表等の番号は、図及び写真では「図 1, Fig. 1」、表では「表 1, Table 1」等とする。

[例 1 (図タイトルの記載例)]

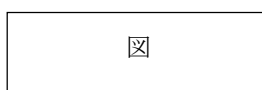


図 1 制御装置の概要

Fig. 1 Schematic diagram of control system

[例 2 (表タイトルの記載例)]

表 1 測定項目

Table 1 List of measurements

| |
|---|
| 表 |
|---|

- (4) 続報における図表等の番号は初報と続き番号としない。
- (5) 図は、その内容が見やすく、かつ直接製版に回し得るよう、明瞭・鮮明に作成する。明瞭・鮮明でない編集委員会が認めたものについては、編集委員会は投稿者に訂正を求めるが、場合によっては、書き直しを外注によって行う。この場合、投稿者の同意を得ることを原則とする。なお、この外注に要する経費は投稿者の負担とする。
- (6) 図の大きさは、原則として印刷仕上り寸法で 8 cm × 8 cm か、8 cm × 16 cm とし、原図は原寸、1.5 倍あるいは 2 倍で作成する。印刷仕上り寸法は付属文字（縦軸、横軸の説明等）を含む大きさである。座標軸を用いて表現する図は、座標軸を必要以上に長くしない。座標軸等の重要な線の太さは印刷仕上りで 0.2 ないし 0.3 mm になるようにし、スケール線はそれよ

り若干細くする。

- (7) 図中の文字、記号等の縮小後の大きさは、天地（上下）2 mm を標準とする。立体と斜体の使い分け等、字体については、本文の文字と整合させる。
 - (8) 表は横罫線のみとし、表中の文字の字体は、本文の文字と整合させる。
 - (9) カラー印刷については、希望する図表等のページの右上に（カラー）と記入する。この場合に投稿者の納付すべき金額については別に定める。カラー印刷しない図表等は、投稿者がグレースケールに変換する。
- ## 10. 文字等の指定
- (1) ローマ字、ギリシャ文字、大文字、小文字、上付、下付、イタリック、ゴシック、（特殊フォントの使用などによる）筆記体等については、本文ファイル及び図表等ファイルで該当する各文字にそれぞれ直接設定する。
- ## 11. その他
- (1) 下線等の文字装飾は使用しない。

III 原稿の送付

1. 投稿時に送付するもの

- (a) 本文ファイル及び図表等ファイル（いずれもワード形式が望ましい）
- (b) 論文閱讀資料（研究論文・技術論文で、希望する場合のみ）
- (c) 第 2 報以降の概要（研究論文・技術論文で第 1 報と同時に投稿しない場合で、希望する場合のみ）
- (d) 母語が英語以外の投稿者の和文原稿にあつては、英文 Abstract の添削済証明書（ネイティブの学識経験者、または理科系科学論文を扱う英文添削業者に依頼し、それと分かるサイン（所属/添削年月日を含む）及び論文タイトルと著者名が添えてあること）

2. 印刷時（掲載可となった後）に送付するもの

- (a) 著作権譲渡書
- (b) 校正原稿
- (c) 著者校正チェックリスト

3. 送付先

投稿原稿の種類またはその他送付物に応じて、当学会 Web サイトで指定した先に送付する。

附 則

1. この細則は 2021 年 1 月 1 日から施行する。
2. この細則の変更は編集委員会が行い、理事会の承認を得て学会誌に公示する。